2003年度下期における個人預貯金の動向

1　はじめに

2003年度下期の農協貯金の前年比伸び率は，03年９月の1.8%から04年３月の2.1%へと上昇した。貯金利用者別にみると，公金貯金は02年３月以降前年比減少が続いていることから，伸び率の上昇は個人貯金の増加によるものと思われる。

農協貯金の前年比伸び率は，02年12月から上昇傾向にあった。しかし，03年度上期までの伸び率には，02年４月の定期性預貯金等のペイオフ凍結解除の影響が含まれている。03年度下期ではその影響もなくなったことから，伸び率の上昇は足もとでの実勢を示すものと考えられる。

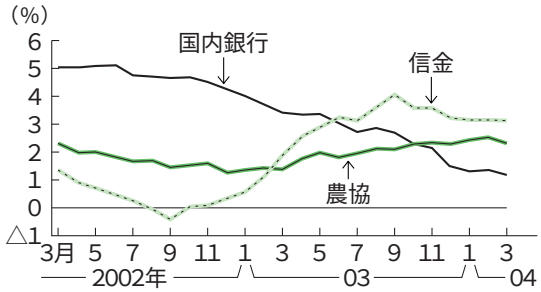
以下では，農協貯金(注１)の動向を他業態と比較することで，03年度下期の特徴をみてみたい。

（注１）農協貯金については，伸び率は一般貯金（貯金から公金貯金，金融機関貯金を差し引いたもの）のデータによる。流動性貯金，定期性貯金のデータは公金等も含んでいる。

2　業態別個人預貯金の動向

業態別に個人預貯金の伸び率をみると，農協は02年12月まで低下傾向，その後上昇傾向にあり，国内銀行は，02年６月以降低下傾向にある（第１図）。信金では，02年度上期中に伸び率が低下し，02年８月，９月はマイナスとなったが，02年度下期から03年度上期には伸び率の上昇がみられた。

第１図　業態別個人預貯金の前年比伸び率



資料　農協残高試算表,日銀ホームページ
（注）１　国内銀行は都銀,地銀,第二地銀,信託銀行,長期信用銀行の合計。
２　国内銀行,信金は平残,農協は末残。
３　03年3月に石川銀行の営業譲渡（第二地銀→地銀,第二地銀,信金）があり,データには不連続がある。
４　農協のデータは一般貯金（貯金－公金貯金－金融機関貯金）。

03年度下期についてみると，国内銀行，信金の伸び率が低下傾向にあるなかで，農協の伸び率はやや上昇している。

3　預貯金種類別の動向

流動性・定期性別の推移をみると，02年度上期では，いずれの業態でも流動性預貯金が前年に比べて増加し，1,000万円以上の大口定期預貯金を中心に定期性預貯金が減少した（第１表）。

特に信金では，定期性預金の減少が流動性の増加分を上回っていたことから，その一部は外部に流出していたと考えられる。02年10月に普通預貯金等のペイオフ凍結解除の延期が決定した後には，資金移動に落ち着きがみられ，信金での定期性預金の減少幅が大きく縮小した。

第1表　業態別個人預貯金の前年比伸び率・寄与度

（単位　%，兆円）

	農協			国内銀行			信金		
	貯金全体の伸び率（a＋b）	寄与度（ポイント）		貯金全体の伸び率（a＋b）	寄与度（ポイント）		貯金全体の伸び率（a＋b）	寄与度（ポイント）	
		流動性(a)	定期性(b)		流動性(a)	定期性(b)		流動性(a)	定期性(b)
2002年3月	2.0	3.8	△1.8	5.0	8.4	△3.4	1.3	4.1	△2.7
02. 9	0.9	4.4	△3.6	4.7	9.9	△5.2	△0.4	5.1	△5.5
03. 3	1.2	1.9	△0.7	3.4	5.7	△2.3	1.9	3.1	△1.3
03. 9	1.8	1.3	0.5	2.7	3.4	△0.7	4.0	2.0	2.0
03.12	2.0	1.5	0.5	1.5	2.6	△1.1	3.2	1.8	1.4
04. 3	2.1	1.6	0.5	1.3	2.5	△1.2	3.1	1.9	1.2
04. 3残高	76.0	21.8	54.2	322.8	141.8	181.0	84.0	22.3	61.7

資料　農協残高試算表　日銀「金融経済統計月報」
（注）1　第1図の（注）1～3に同じ。
　　2　農協のデータは個人以外も含む値。
　　3　寄与度の算出方法
　　寄与度＝（預貯金種類別）前年同月比増減額／前年同月個人預貯金残高×100

03年度上期には，いずれの業態も流動性預貯金の増勢に大きな変化はみられなかったが，定期性では農協，信金が前年比増加に転じ，特に信金では増加幅が拡大した。(注2)

03年度下期をみると，04年３月の伸び率は農協2.1%，国内銀行1.3%，信金3.1%となっている。農協，信金の流動性預貯金は，増加幅に大きな変化はみられなかったが，定期性預貯金は，信金で増加幅の縮小がみられた。これは1,000万円未満の定期預金で増勢が鈍化したことの影響と思われる。

国内銀行では，流動性預金の増勢が弱まっているが，それでもなお寄与度は2.5ポイントと農協，信金よりも高い。定期性預金は，大口定期預金の減少に加え，1,000万円未満の定期預金でも前年比減少に転じたことから，減少幅が拡大している。そのため，流動性預貯金，定期性預貯金ともに増加している農協，信金よりも，伸び率が低くなっている。

一方で，国内銀行では市場性金融商品の販売に力を注いでおり，投信の預かり資産残高の前年比増加額は03年３月末の1.0兆円から04年３月末には3.4兆円へと増加している。定期性預金の減少額の一部もこれら市場性金融商品へシフトしていると考えられる。

（注２）02年度下期，03年度上期では，1,000万円未満の定期預金の残高が大幅に増加した。2002年度全国信用金庫概況によれば，この間金利優遇等，定期預金の獲得に積極的であったとされる。

4　まとめ

03年度下期は，定期性預貯金等のペイオフ凍結解除の動きが収まった後，05年４月の普通預貯金等のペイオフ凍結解除が実施されるまでの間にあって，落ち着いた動きがみられた。今後，決済用預貯金を除く普通預貯金等のペイオフ凍結解除の実施が近づくにつれて，どのように変化していくのか，その動向が注目される。

（研究員　小針美和・こばりみわ）